

泰山の古代遺跡探訪記

神奈川の古代遺跡シリーズ 001

神武寺・鷹取山探訪記その2

神武寺境内は女人禁制地だった！

神武寺・鷹取山探訪記その1	神武寺裏参道に行く	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-1.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その2	神武寺境内は女人禁制地だった！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-2.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その3	衝撃の神武寺奥の院！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-3.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その4	尾根上の巨石群	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-4.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その5	鷹取山へ！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-5.pdf

27-Mar-2010

Gainendesign Labo. Taizan

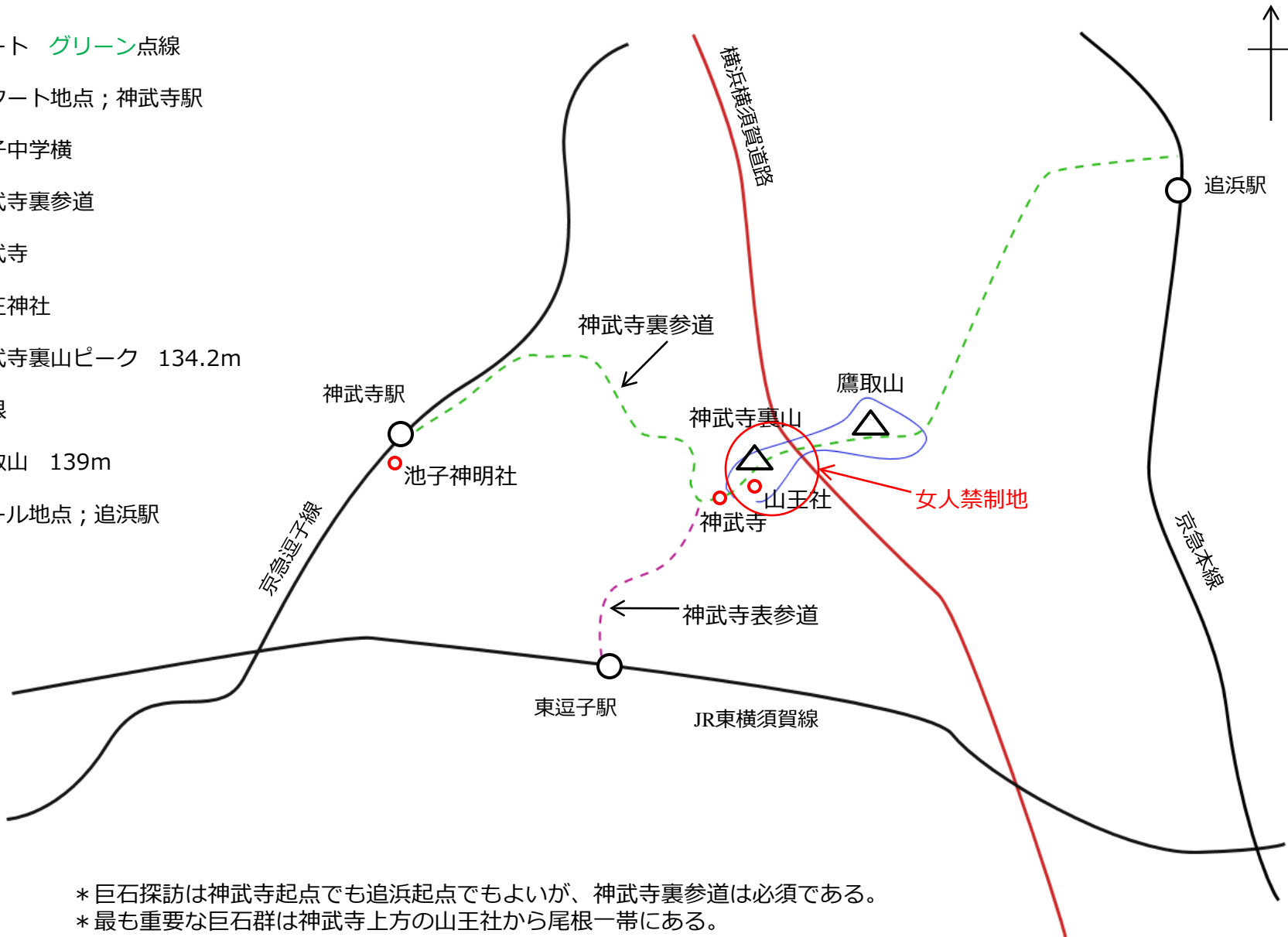
Copyright© by Taizan 2010 all rights reserved

586 Takakura Fujisawa-shi Kanagawa-ken Japan 252-0802

Tel/Fax 0466-43-4713 Email taizan@gainendesign.com HP <http://www.gainendesign.com/>

ルート **グリーン**点線

- スタート地点；神武寺駅
- ↓
- 逗子中学横
- ↓
- 神武寺裏参道
- ↓
- 神武寺
- ↓
- 山王神社
- ↓
- 神武寺裏山ピーク 134.2m
- ↓
- 尾根
- ↓
- 鷹取山 139m
- ↓
- ゴール地点；追浜駅



- * 巨石探訪は神武寺起点でも追浜起点でもよいが、神武寺裏参道は必須である。
- * 最も重要な巨石群は神武寺上方の山王社から尾根一带にある。

神武寺晩鐘を後にして少し登ると六地藏に出る。そこを左に登れば「医王山」の山門である。境内には薬師三尊を祀る薬師堂がある。



荘厳な「医王山」の総門



屋根の“むくり”ラインが見事な薬師堂。神武寺の創建は、神亀元年（724年）、聖武天皇の霊夢によって行基が十一面観音、釈迦如来、薬師如来の三尊像を祀った。秘仏御開帳は33年毎、次回は平成29年とか…。



六地藏が穏やかに迎えてくれる。左端は観世音菩薩像。





熊野三山に因み、新宮台、本宮台、那智になぞらえた新宮台にある山王権現社。天安元年（857年）に慈覚大師円仁が日吉山王権現を勧請し開山した。鳥居の基礎は残っているが、かなり荒れている。ここはきちんと建てなおすべきだ。

→ポルトガルから移植された樹齢400年のホルトの樹。なんじゃもんじゃの樹として親しまれている。



源頼朝が妻の北条政子の安産祈願のために寄進した安産地藏尊のお堂。

左は女人禁制の本宮台へ登る登山道の入り口あるお地藏さん。



薬師堂左の地藏菩薩を過ぎると、そこから裏手山のピークに一気に向かう。修験道の行場でもあったこの山には女人禁制の石碑が立っている。このあたりから、巨石群に遭遇する。



さらに進むと、これまでいくつも見てきた巨石遺構に特有な『石門』としての一对の巨石が目飛び込んでくる。極めて重要な対象物である。



『石門』を過ぎると菱形の記念碑が載った巨石が現れる。重要なのは記念碑の台座になっている“磐座”と思いきこの巨石である。左が正面、右が裏面。因みに、菱形の石碑は明治39年に建てられたもので、総門の標として巨石を切り出し「神武寺」と刻んだ旨の感謝が述べられている。72名の賛助とか。



菱形の記念碑は120年以上前の明治39年に建立されたもの。興味深い裏書きが記されていたので紹介したいと思う。

文体は漢文で全て漢字であり当用漢字に無い文字もあるので、著者が適宜分かりやすく補足したので、文意をくみ取ることには主眼を置いて頂きたい。碑銘には『門標 建設 賛助 ◎名』（◎名はたぶん氏名あるいは乃名）とある。この石碑を「東宮記念碑」ともいう。



漢文の原文

東宮殿下啓以来貴顯頻登嶽而憾総
 門無標也当山七十二世暢海閣梨募
 賛助七十二名切出巨石於是本宮臺
 之下彫刻神武寺之三字建之総門傍
 余随喜記事由焉
 明治三十九年丙午十月鎌倉實戒寺五十六世慈潤

Ⓜ

神嶽に登れば、東に房総、西に箱根と富士對をなし、北には日光、筑波を望む。

海面は東西間で四時出沒し、眺望はまさにこの世の塵埃を浄かするかのようである。

明治二十八年東宮殿下（当時の皇太子；後の大正天皇）行啓以来、貴顯（高貴な方）嶽に登ること頻繁になり、而して総門に標（しるべ）無きこと憾ずることあり。（遺憾に思った）

当山（医王山神武寺）七十二世暢海閣梨（阿闍梨の略）が七十二名の賛助を募り、巨石を切り出し、之に於いて、本宮臺の下に「神武寺」の三字を刻み、総門の傍らに建立する。（本宮台とは山王社がある一帯をいう）

余 随喜（この行いを喜んで） 記事（にする）
由焉（理由、意図）

明治三十九年 丙午十月 鎌倉 實戒寺 五十六世 慈潤

青字は著者注釈



神嶽に登れば、東に房総、西に箱根と富士對をなし、北には日光、筑波を望む。

海面は東西間で四時出没し、眺望はまさにこの世の塵埃を浄かするかのようである。

明治二十八年東宮殿下（当時の皇太子；後の大正天皇）行啓以来、貴顕（高貴な方）嶽に登ること頻繁になり、而して総門に標（しるべ）無きこと憾ずることあり。（遺憾に思った）

当山（医王山神武寺）七十二世暢海闇梨（阿闇梨の略）が七十二名の賛助を募り、巨石を切り出し、之に於いて、本宮臺の下に「神武寺」の三字を刻み、総門の傍らに建立する。（本宮台とは山王社がある一帯をいう）

余 随喜（この行いを喜んで） 記事（にする） 由焉（理由、意図）

明治三十九年 丙午十月 鎌倉 實戒寺 五十六世 慈潤

青字は著者注釈

上記碑文に言及されていることで重要な点は…

- ① 神武寺裏山；本宮台と称する山王権現社周辺および山頂部分が既に 『神嶽』 として聖地であると認められていること。
- ② この山頂は房総半島（南総の館山辺りか）、箱根山、富士山、日光（男体山と思われる）、筑波山という聖なる山を望むこと。
- ③ 加えて、360度見渡せる良い眺望があること。
- ④ 山頂から海水面の満ち引きが観測できること。
- ⑤ 身が浄化されること。
- ⑥ 当時の皇太子殿下（後の大正天皇）が何度も登頂されていること。
- ⑦ この山から石を切り出し、わざわざ総門の傍に『神武寺』と彫った巨石を設置したこと。

であり、この山；神武寺裏山（金毘羅山とも称するらしい）がその昔から尊崇されていたことがわかることである。

奥の院の所在については逗子市の経済観光課の説明によると、菱形の東宮記念碑が建てられているまさにその場所が神武寺奥の院の跡であるとのことだった。既に、この記念碑が建てられた明治中期には奥の院は消失してしまっていたということになる。それがいつだったのかは現時点では不明であるが、想像するにさぞ立派な奥の院が巨石群を基礎にして建てられていたことだろう。

神武寺・鷹取山探訪記その1	神武寺裏参道に行く	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-1.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その2	神武寺境内は女人禁制地だった！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-2.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その3	衝撃の神武寺奥の院！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-3.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その4	尾根上の巨石群	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-4.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その5	鷹取山へ！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-5.pdf

その3に続く…

